

第六一回総会 “世代を超えて”

東京とどの実会

幹事長 前田 良三

第六十一総会は、六月二五日、新宿・京王プラザホテルに九十名余の同窓生が集い開催されました。今年は、三月の大震災の直後のことでもあり、又昨年の六十回記念総会の翌年でもあるなど、例年よりは参加者が少ない総会となりました。最高齢は吉見一郎さん（昭44年卒）、最年少は真如純貴さん（平成17卒）、ニュージージランドの国立コタゴ大学へ留学中で一時帰国中の参加でした。昨年白寿を迎えられた吉見先輩と真如さんの年令差はなんと75歳、まさに世代を超えた同窓生の交流、親睦の場となりました。（写真参照）又、震災の被災地、福島県いわき市や郡山市からの参加もあり役員・幹事に喜びを与えてくれました。

来賓として、かしわ会の高橋洋司東京支部長、東京もいわ会の今井正司会長にご臨席いただきました。とどの実会の渡辺和勇会長（昭26年卒）、遠方より駆けつけられ、小谷毎彦市長（昭40年卒）からお祝いのメッセージも届き、総会に華を添えてもらいました。

今年の当番は昭和43卒、昭53年卒期

でした。鈴木富雄さん（昭43卒）渡辺由紀子（昭53卒）の司会で総会が進行しました。校歌斉唱、半田護会長の挨拶、震災で逝去された方々、物故者への黙祷、会計報告と承認と議事が進みました。健康上の理由で退任する半田護会長に替わり小山内清孝新会長（昭26年卒）が承認され、新しい小山内会長体制がスタートしました。今年の校歌は長谷川洸二さん（昭38年卒）の指揮で旧校歌を斉唱しました。老いも若きも青春時代に思いを馳せながらの校歌斉唱は胸に迫るものがありました。杉本勝征さん（昭37年卒）による乾杯の発声で始まった懇親会は、卒業期の近い期毎に十組のテーブルが用意され、同期は勿論世代を超えて交流交歓をしました。

恒例の東京の名所散策ツアーは、“江戸・文人墨客の庭から將軍のお庭へ”のサブタイトルで、東京スカイツリーを眺めながら、向島百花園、隅田公演、水上バス、浜離宮へ辿る内容の濃い散策でした。二十名近い参加を得て今年も好評でした。懇親会の席で散策の参加者も登壇し、リーダーの生駒篤副幹事長（昭47年卒）から楽しい報告がありました。

歌手の北見艶子さんの飛び入りもあって盛り上がりを見せた懇親会でし

たが、村田由美子さん（昭39年卒）と吉見じゅりさん（昭56年卒）のリードで“今日の日はさようなら”を全員で合唱した後、伊藤久江副会長（昭47年卒）の中締めで閉会となりました。来年の再会を約束し、名残を惜しみながら散会しました。

このような東京とどの実会ですが、若手（55歳以下）の参加を促進するかが今抱える課題の一つです。ホームページを充実させ若い年代の掘り起こしに取り組んでいるところですが、単なる同窓生の親睦の会で良いかの、自問するところでもあります。今回の大震災を見るにつけ、故郷北見への思いを強くする日々です。

故郷を共有する人達の集まりである東京北見会と連携を深め、郷土、北見の発展に少しでも寄与できれば良いと考えています。末筆ではありますが、東京北見会の益々の発展を祈念いたします。



世代を超えて



吉見先輩 & 真如さん